

産業医による **コラム**

北風と太陽が教える健康経営の極意

今回の企業様は、健康経営の本質的な意味を掘り下げ、「従業員の健康が、お客様へのサービスの向上と経営の健全性につながる」という、シンプルではあるものの、大変に深い洞察にいたっておられます。トレンドをふまえながら、健康につながる施策を積極的に取り入れ、企業として健康増進を後押ししていることがよく理解される好事例ですが、トレンドをふまえることは「好奇心の刺激」であり、健康のダイレクトな想起は「モチベーションの刺激」であると捉えると、よくよく工夫された仕組みであると思います。さらに、私が特筆すべき施策だと感じた点は、健康診断を受診した結果、再検査となった従業員に対し、企業としてそれを後押しした手法です。俗にいう、ホラーストーリー（放置しておくと思えない将来につながることを強調し、行動につなげる説得話法）を用いつつ、従業員のご家族も巻き込んだ意識付けも行なっているのです。北風と太陽でいえば、ホラーストーリーの展開は北風であり、ご家族のサポートは太陽です。こうした硬軟織り混ぜた手法によって、企業としての強い意志を示しつつ、健康を願う温かな思いを伝えることにも成功しているのでしょう。臨床の現場でも、直接的な「本人への説得」が、ご家族のサポートにより「本人の納得」へ変わる場面によく出会います。そのような意味で、今回の事例は大いに参考とすべきものといえるのではないのでしょうか。



VISION PARTNER
メンタルクリニック四谷院長
尾林啓史（おぼやし たかふみ）
精神科医・産業医。1975年、東京生まれ。note株式会社など20社弱の企業にて産業医・カウンセリング業務を務めている。著書に「元サラリーマンの精神科医が教える 働く人のためのメンタルヘルス術」（あざ出版）などがある。

「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらす、結果的に業績向上や株価向上につながるものと期待されます。（経済産業省HPより）
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kenko_keiei.html
※「健康経営®」は特定非営利活動法人健康経営研究会の登録商標です。



フェアトレード商品、オーガニック認証商品のコーヒーや紅茶が設置されるエントランス

際、フィーカを知りました。緊迫した会議の間でも、みんなクッキーをつまんでコーヒーを飲むんです。突然椅子から降りてストレッチを始める人もいました。集中して仕事をするためには、同じ程度のリラクセスが大切ということでしょう。帰国後すぐにフィーカを取り入れ、就業時間内でも1時間に1回程度のコーヒーブレイクや運動を推奨しています」

「以前の募集をしてもエントリーが少ない状況でしたが、今では多くの方に応募いただいています。健康経営や福利厚生を志望理由にあげてくれる方がほとんどで、それだけ影響があるのだと実感しました」

「費用補助はもちろんです。従業員本人だけでなくご家族にも手紙をお送りして、意識付けを強化しています。再検査で病気が発見された人には社内報に経験談を書いてもらい、「発見できて良かった」と思えるような空気づくりも進めてきました」

「まだ大丈夫だろう」と再検査を後回しにするケースが多いことが判明したからだ。」「費用補助はもちろんです。従業員本人だけでなくご家族にも手紙をお送りして、意識付けを強化しています。再検査で病気が発見された人には社内報に経験談を書いてもらい、「発見できて良かった」と思えるような空気づくりも進めてきました」

「どんな規模の会社であっても、動くのは一人ひとりの従業員です。企業として優れたノウハウやサービスがあっても、持続的に提供できる人材がいなければ成り立ちません。選ばれ続ける企業であるためには、自分たちの世代だけとは考えず、何十年後も従業員がパフォーマンスを発揮できる環境を整えていくべきです。そのために重要なのは、最新の知見をキャッチしながら、自ら試みていく姿勢だと考えています。サステナブル経営の実現のために、これからも健康経営をアップデートしていきたいと考えています」

徳島県で建設機械の販売、レンタル、修理などを展開する喜多機械産業株式会社。2019年より5年連続で「健康経営優良法人」を取得し、2021年からは「プライト500」にも選出されている。創業時よりアットホームな社風で、従業員一人ひとりの健康を家族のように意識してきた。「健康経営」に力を入れ始めたのは、会社の将来を考えたとときだった」と代表取締役社長の喜多真一氏は語る。「進むべき道を考え、最終的に辿り着いたのが、従業員のみんなが元気で、『ここで働いていて良かった』と感じてくれる会社でした。従業員の健康はお客様へのサービス向上、会社経営の健全性にもつながります。今まで以上に健康づくりに注力すべきだと考えました」

約250人の従業員を抱える同社では、経営陣の発信だけで健康経営を推進するのは困難だ。そこで喜多氏は、各営業所・部門に健康づくり担当者を配置。管理者のリーダーシップにより、全従業員が健康課題の背景や理由を深く理解できるようにした。こうした体制のもと、再検査やがん検診の推奨を開始。以前から健康診断の受診率は100%だったものの、「まだ大丈夫だろう」と再検査を後回しにするケースが多いことが判明したからだ。」「費用補助はもちろんです。従業員本人だけでなくご家族にも手紙をお送りして、意識付けを強化しています。再検査で病気が発見された人には社内報に経験談を書いてもらい、「発見できて良かった」と思えるような空気づくりも進めてきました」

「サステナビリティを学びにスウェーデンの企業を訪問した」



社内を設置したトレーニングマシン。顧客企業への販売やレンタルも行っている

実践!
健康経営

喜多機械産業株式会社
選ばれ続ける企業になるために
サステナブルな健康経営を

トレンドをキャッチしながら
健康と働きがいの両立を支援

約250人の従業員を抱える同社では、経営陣の発信だけで健康経営を推進するのは困難だ。そこで喜多氏は、各営業所・部門に健康づくり担当者を配置。管理者のリーダーシップにより、全従業員が健康課題の背景や理由を深く理解できるようにした。こうした体制のもと、再検査やがん検診の推奨を開始。以前から健康診断の受診率は100%だったものの、「まだ大丈夫だろう」と再検査を後回しにするケースが多いことが判明したからだ。」「費用補助はもちろんです。従業員本人だけでなくご家族にも手紙をお送りして、意識付けを強化しています。再検査で病気が発見された人には社内報に経験談を書いてもらい、「発見できて良かった」と思えるような空気づくりも進めてきました」

のパーソナルトレーナーが監修するエクササイズ動画の制作など、トレンドを取り入れたユニークな施策を実施している。エクササイズ動画は、デスクで座ったまま5分程度でできる内容を月に2回配信し、就業中に気軽に運動できるように提案。運動促進においては、社内に従業員が自由に使えるトレーニングマシンを設置している。また、集中力アップやリラクゼーションなどメンタル面の環境整備も推進しており、アロマやフィーカタイムを導入。フィーカは菓子と一っしょにコーヒーを飲んで休憩する、スウェーデン由来の習慣だ。



所在地 徳島県徳島市庄町3丁目16番地
代表取締役社長 喜多真一
設立 1961年
事業内容 建設機械・資材の販売、レンタル、修理など
ホームページ: <https://kitaikai.co.jp/>

